



環境基本方針と環境行動計画

「FDKグループ環境方針」を制定し、環境行動計画に基づいた環境保全活動をグループ全体に展開することで社会の持続的な発展に貢献します。

FDKグループ環境方針

企業の事業活動に伴う環境への取り組みは、国や地方の規制に対応するだけでなく、地球レベルの視点で主体的に考え、地球温暖化対策、廃棄物の削減、化学物質の管理の徹底などに対して行動しなければならないと考えています。それは、持続可能な社会の構築という大きな命題への共通認識でもありと考えています。FDKグループは、自社の活動に加え、富士通株式会社とグループでの活動推進に取り組みます。そのために環境活動の根本である環境方針を統一しました。これは、自主的な環境負荷低減とグループでの活動による相乗効果により、さらに充実した環境活動の推進を狙ったものです。

理念

FDKグループは、環境保全への取り組みが重要な経営課題であると認識し、IT企業としてその持てるテクノロジーと創造力を活かし、社会の持続可能な発展に貢献します。また、事業活動にかかわる環境法や環境上の規範を遵守することとまらず、自主的な環境保全に努めます。さらに、豊かな自然を次の世代に残すことができるよう、すべての組織と一人ひとりの行動により先行した取り組みを継続して追求していきます。

スローガン

**FDKグループは自然を愛します
かぎりある地球のために**

組織と体制

環境活動における方針などの重要事項については「環境会議」で審議します。審議・決定された内容は、経営者層で構成される「経営会議」において承認を得てから展開されます。そしてISO14001の環境マネジメントシステムの単位で構成された「事業所環境管理委員会」で、方針・施策についての具体的な実行計画を策定し、マネジメントのPDCA(Plan,Do,Check,Action)のサイクルによって、スパイラルアップを目指した活動を展開しています。

製品に含まれる含有化学物質においては2004年10月に「含有化学物質管理委員会」を新設し、有害物質の排除と管理体制の強化を図っています。(P25参照)

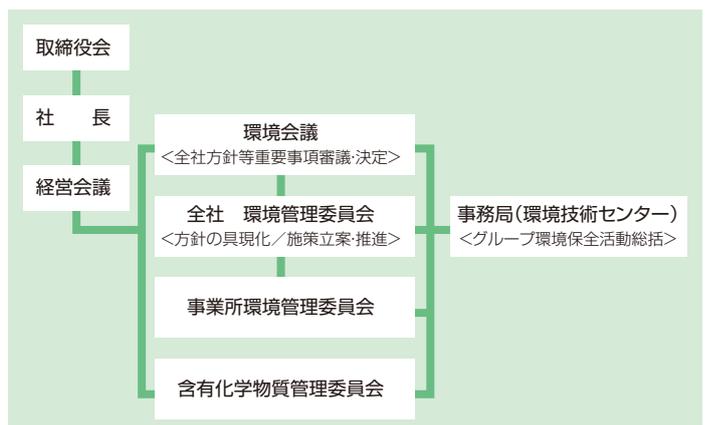
行動指針

1. 製品のライフサイクルを通じ、すべての段階において環境負荷を低減する。
2. 省エネルギー、省資源および3R(リデュース、リユース、リサイクル)を強化したトップランナー製品を創出する。
3. 有害な化学物質や廃棄物などによる自然環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防する。
4. IT製品とソリューションを通じ、お客様や社会の環境負荷低減と環境効率の向上に貢献する。
5. 環境に関する事業活動、製品およびサービスについての情報を開示し、それに対するフィードバックにより自らを認識し、これを環境活動の改善に活かす。
6. 従業員一人ひとりは、それぞれの業務と市民としての立場を通じ環境の改善に努める。

環境マネジメントサイクル



環境組織



第三期環境行動計画

FDKグループでは「環境方針」を展開していくための具体的な目標として、「環境行動計画」を策定しています。2006年度は、第三期環境行動計画の最終年であり、これまでの実績に対する評価を行いました。2004年度末に廃棄物ゼロエミッションを達成し、2005年度には、初のスーパーグリーン製品の開発や、国内外の全生産拠点でISO14001を認証取得するなどの実績をあげてきました。数値目標の無い項目などについては、達成度評価が難しい面もありますが、結果として、すべての項目において行動計画の目標を達成することができたと判断いたしました。

第三期 環境行動計画に対する実績(2004~2006年度)

項目	行動計画	実績 (2006年度末)	評価
環境経営の強化	<p>環境マネジメントシステムに基づく環境経営の枠組みを、2005年度末までにグループ全社で確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本社、営業を含めた国内の全領域に環境マネジメントシステムの導入を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 2005年度末までに海外を含むグループ全ての生産拠点でISO14001を認証取得した。 本社、営業部門は2005年度末までに、マネジメントシステム導入のキックオフおよび初期調査を実施した。2006年度はFDKEMSを構築し活動を継続中。 (P20参照) 	○
グリーン調達	<p>取引先における環境マネジメントシステム(EMS)を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本国内の製造拠点を活動の対象とし、環境マネジメントシステムが構築されていない取引先に対して環境マネジメントシステムの構築を推進する。 構築する環境マネジメントシステムは、ISO14001、EMAS、エコアクション21、エコステージ、地域独自の環境マネジメントシステム、等の第三者認証機関が認証したもの、又は、富士通グループ環境マネジメントシステム(略称:FJEMS)、FJEMSと同様レベルの新たに考案したFDKグループ環境マネジメントシステム、FDKが認めた取引先独自の環境マネジメントシステムとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムを構築したお取引先が188社増加した。(このうちFDKEMSの構築は36社) (P21参照) 	○
製品環境対策	<p>環境トップ要素を持つスーパーグリーン製品を、2006年度末までに提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 省エネ、3R(Reduce, Reuse, Recycle)設計、有害物質などの環境要素を先行取り込みした「グリーン製品」(環境配慮強化型製品)の中でも、「世界初」、「世界最小」、「国内初」、「業界初」、「国内最小」、「業界最小」となるトプランナー製品である「スーパーグリーン製品」(環境配慮トップ型製品)を2006年度末までに提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> スーパーグリーン製品を2製品提供した。 ①超小型積層パワーインダクタ MIPF2520Dシリーズ(2005年度) ②高周波積層チップインダクタ AML0603Eシリーズ(2006年度) (P22参照) 	○
	<p>全ての製品に含有する富士通グループ指定有害物質を、2005年度末までに全廃する。ただし、RoHS対象の欧州向け製品は、2004年12月末までに対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 富士通グループ指定有害物質31物質群を全ての製品において2005年度末までに全廃する。 欧州向けのRoHS対象製品は、鉛、カドミウム、水銀、6価クロムの化合物および、PBB、PBDEについて、2004年12月末までに対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様から指定有害物質の全廃要求があった製品については全廃済。継続要求のあった製品については顧客仕様に沿って対応済み。 (P25参照) 	○
地球温暖化防止	<p>エネルギー消費CO₂を2006年度末までに2000年度実績比15%削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内事業所におけるエネルギー消費CO₂を2006年度末までに2000年度実績比15%削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費CO₂を62%削減した。(2000年度実績53,998トンに対し、2006年度実績は20,460トン) (P26参照) 	○
	<p>物流・リサイクル・省エネ製品等により削減貢献。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物流改善、製品・包装材のリサイクル、省エネ製品の開発および購入によりCO₂の削減を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 配送ルート見直し、積載効率向上等によりCO₂の削減に貢献した。 (P27参照) 	○
グリーンファクトリーの推進	<p>化学物質(PRTR対象物質)の排出量を、2006年度末までに2001年度実績比で15%削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内の事業所を対象として、PRTR対象化学物質の排出量を2006年度末までに、2001年度実績比で15%削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象物質の排出量を76%削減した。(2001年度実績5.5トンに対し、2006年度実績は1.3トン) (P28参照) 	○
	<p>廃棄物発生量を2006年度末までに2003年度比で3%削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内の事業所を対象として、廃棄物の発生量を2006年度末までに2003年度比で3%削減する。 なお、2004年度末までゼロエミッションを達成する。(第2期環境行動計画の2005年度末までを1年前倒しで実施する。) 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物発生量を18%削減した。(2003年度実績2,081トンに対し、2006年度実績は1,708トン) 廃棄物ゼロエミッションは2004年度末に達成した。以降、ゼロエミッションを継続中。 (P29参照) 	○

※ 評価 ○:達成 ×:未達成



環境基本方針と環境行動計画

第四期環境行動計画

2006年度までの第三期環境行動計画の活動期間の終了に伴い、2007年度から2009年度までの3か年にわたる第四期環境行動計画を策定いたしました。今後、この計画に基づいた活動を展開していきます。

基本的な考え方

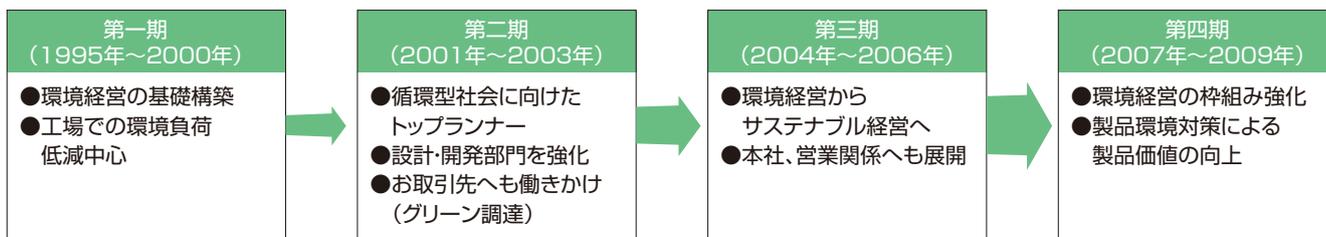
FDKグループでは、工場でのマネジメントシステム構築から、グループ全体でのマネジメントシステム構築による環境経営の推進へとその範囲を拡大してきました。環境負荷の軽減においても、工場での負荷だけでなく、工場に入ってくる部材・部品類、そして工場から出荷する製品や物流へと範囲を広げて活動を展開してきました。

第四期環境行動計画では、第三期環境行動計画の活動を継承しつつ、以下の活動に重点をおいて、さらなるレベルアップを図っていきます。そして、最近の環境リスクに対する関心の高まりから、グループ全体の管理体制を再点検し、環境公害防止体制とその運用の強化やVOC(揮発性有機化合物)の排出量削減にも取り組んでいきます。なお、第四期環境行動計画は国内グループにおける目標となっており、海外を含めた目標設定は今後の課題と認識しています。

活動の重点

- ①グループ全体としての活動の基礎となる環境経営の枠組みを強化し、本社・営業などの非生産部門や海外グループとの連携強化とレベルアップを図ることで、よりグループ一体となった活動を展開していきます。
- ②地球規模での環境破壊や温暖化が危惧されている中、FDKグループでは製品使用時のCO₂の抑制や省資源などで貢献できるよう、さらに製品環境対策に力を入れます。そして一歩進んだ製品環境対策により、当社グループの製品価値を向上させていきたいと考えています。

環境行動計画の変遷



第四期環境行動計画の目標(2007～2009年度)

項目	目標
環境経営の強化	環境マネジメントシステムに基づく環境経営の枠組みの強化 (1)オフィス部門のレベルアップ (2)海外生産拠点との連携強化
グリーン調達	取引先における環境マネジメントシステム(EMS)を推進する
リスクマネジメントの強化	環境公害防止体制および運用の強化
製品の価値向上	新規開発した製品を対象に、環境トップ要素を持つスーパーグリーン製品を2009年度末までに20%以上とする
	新規開発した製品を対象に、2005年度製品と比較して環境効率ファクター2を2009年度末までに達成する
地球温暖化対策	エネルギー消費CO ₂ 排出量を、2010年度末までに2006年度実績比2%削減する
	輸送CO ₂ 排出量の削減
グリーンファクトリー	VOC(揮発性有機化合物)の排出量を、2010年度末までに2000年度実績比30%削減する
	廃棄物発生量を、2009年度末までに2006年度実績比3%削減する